

特集

# そうだったのか腎移植

## 泌尿器科ジェネラリストを目指そう！

### 企画にあたって

近年泌尿器科学におけるサブスペシャリティ分野の発展はめざましいものがあります。その分野を専門とする医師にとっては、診療を実践すればするほど知識が深まり、興味がより深まっていくという好循環が生まれますが、専門としない医師にとっては、より複雑化するサブスペシャリティ分野は、とっつきにくいものになっているのではないのでしょうか。

20 数年前、入局する診療科を選ぶ際、開腹手術から腹腔鏡、内視鏡、血管手術という多様な術式があり、全身管理ができ、それでいて内科学的な知識も習得でき、マイナー外科ではあるがジェネラリストを目指せるという奥深い泌尿器科の魅力に惹かれて入局を決意したのを思い出します。腎移植医療には、ジェネラリストを目指す医師にとって重要なエッセンスが数多と散りばめられています。ロボット腹腔鏡全盛時代において、それでも泌尿器科にとっては依然として必須の技術である泌尿器科開放手術に必要なあらゆる手技を学べる大変貴重な機会を与えてくれます。

腎移植の年間実施件数は右肩上がり、腎移植を希望する患者さんは年々増えていくことが想定されます。腎移植診療の SDGs を考えた場合、腎移植をサブスペシャリティ分野の枠組みから泌尿器科日常診療へと昇華することが重要と考えます。新進気鋭のジェネラリストを目指す若手泌尿器科医にぜひこの魅力ある腎移植医療を学んでいただきたいと思い本特集の企画をさせていただきました。移植関連領域で活躍されている先生方に、腎移植を理解するうえで重要なポイントをわかりやすく解説していただきました。難しい内容も含まれておりますが、実臨床とリンクさせればより理解が深まると確信しております。本書の内容をきっかけに、身近にいる上級医にどんどん質問してみてください。本特集を通じて、腎移植の印象が「とっつきにくい」から「なるほど」に変わることを期待しております。

聖マリアンナ医科大学  
腎泌尿器外科学

篠田 和伸